



- (左) 高梁市から国道313号で真庭市に出ると旭川にぶつかった。やや広くなった流れが春の陽に輝いていた。流れに沿う出雲街道には満開の桜並木(真庭市落合)が続き、道行く人を暖かく出迎えていた。
- (右) 旭川を少し北上し、支流の新庄川に入った。並行して出雲街道。街道沿いの新庄宿は、江戸時代に旅人で賑わったとか。写真は美甘溪谷の新緑。山藤の花が、光り輝く清流に色を添えている。



## 川に見る・日本の四季<sup>⑬</sup> 中国地方の川の「春」を追う 吉備路の春は、“桃源郷”の趣。



岡山県の川に春を追った。

まず、高梁川。鳥取県境の花見山に源を発し、全長約111km。岡山県の三大河川のひとつ(ほか旭川と吉井川)である。

岡山市街地を抜け、山陽道を下る。吉備津彦神社(備前国一の宮)、吉備津神社、備中国分寺(聖武天皇の発願で創建された国分寺のひとつ)、総社宮(地域の神社の祭神を集めて祀った神社)など吉備の国の文化と歴史に触れながら走ると、総社市で高梁川に出会った。

山陽道から国道180号に入り、北上する。しばらくするとピンク色に染まった畑が見えてきた。岡山名産「白桃」の畑だ。高梁川沿いに満開の桃畑が延々と続いている。しかし、地元の農家は「手間がかかり、高齢化も進んでずいぶん減った」と寂しそうに話す。目を転ずれば、山肌にはこれも名産の「マスクット」畑。

作業用の脚立を借り、カメラ位置をやや高くして撮ってみた。“桃源郷”の趣である。

この後、高梁川を上り、また、一転して旭川や新庄川沿いに走った。春爛漫の吉備路だった。



国道180号で総社市を過ぎ、高梁市に入る。広瀬辺りで高梁川の谷が少しずつ深くなり、岸边には菜の花。木々が芽吹き、山里に春が訪れたようだ。